

変化を力に変える“意思決定”革新

uvance

- Data×AIで創る医療の未来 -



近年、生成AIをはじめとするAI技術の進化は、ヘルスケア業界にも大きな変革をもたらしています。医療現場や経営環境はかつてないスピードで変化し、医療従事者や経営層には、より複雑かつ迅速な意思決定が求められるようになっていきます。

こうした状況を受け、データとAIを活用して意思決定プロセスを高度化する「Decision Intelligence」への注目が高まっています。Decision Intelligenceは、従来の経験や勘に頼った属人的な判断から脱却し、膨大な医療データやリアルタイム情報、AIによる予測分析を組み合わせることで、再現性と客観性のある意思決定を実現します。

本資料では、ヘルスケア業界においてDecision Intelligenceがどのような価値を提供するのか、業界を取り巻く環境変化、そして先進的な取り組み事例をご紹介します。医療の質向上や業務効率化、患者体験の向上、さらには持続可能な医療体制の実現に向けて、貴社の未来を拓く一助となれば幸いです。

Index

- 1 **Decision Intelligenceはヘルスケアの未来をどう変えるのか？**
- 2 **ヘルスケア業界を取り巻く環境**
- 3 **環境変化をチャンスに変える医療の未来創造**
- 4 **先進事例 ① 医療従事者向けサービス**
- 5 **先進事例 ② 社会医療法人 玄州会様**



Decision Intelligenceは ヘルスケアの未来をどう変えるのか？

uvance



患者

不安を抱えたまま退院



時間や場所を問わず
適切な医療を受けられる

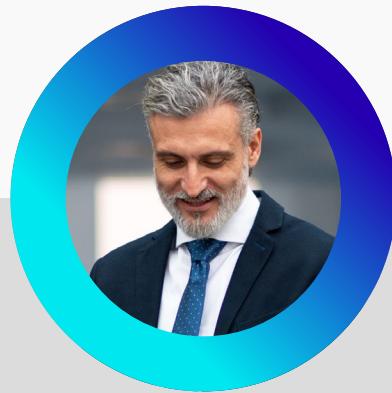


医者

事務作業に追われる



患者に向き合う時間の
確保と質の高い医療提供



病院（経営者）

人手不足で対応が遅れる



収益性の確保と
安定した医療基盤の提供

Decision Intelligenceは ヘルスケアの未来をどう変えるのか？

uvance



患者

- 病院間でカルテ情報が連携されており、**時間や場所を問わず適切な医療を適切なタイミングで受けることが可能**
- **入院から退院、その後の治療方針までが一元管理**され、継続した患者ケアと納得感のある意思決定を支援



診療やケアがより
パーソナライズされ迅速に



24時間対応のバーチャル
ヘルスアシスタントの普及による効率化



医者

- カルテ入力や診断書等の文書作成といった**非診療業務の軽減**による**専門性発揮の機会拡大**と**医療・ケアの質向上**
- 各部門毎に管理されていた診療記録や検査結果、カルテ等の情報が統合されることで**迅速に診断や治療方針の決定が可能に**



業務負荷の軽減で
専門業務に集中



AIによる診療遅延・
治療中断の削減



MAS導入で
ICU判断力強化



病院（経営者）

- ベッドの稼働状況や様々な患者データ・ルールを加味して**ベッド稼働を最適化、スムーズな患者受け入れを実現**
- 経営判断に必要な情報がリアルタイムで可視化、病院全体での**医療資源の最適配分や収益構造の見直しが可能に**



予測活用で
病院運営を効率化



請求否認分析し
収益を改善



ワークフロー改革で
医療の質向上

約7%

オンライン診療における高齢世帯の割合*1
(2021年度)

約21.7%

診療時間のうち事務作業が占める割合*2
(2020年度)

約74%

赤字経営に陥っている病院の割合*3
(2024年度)

医療現場では患者一人ひとりの状態に応じた最適なケアを提供するために、診療データ、検査結果、生活習慣、過去の治療履歴など、膨大な情報をもとに迅速な判断が求められます。しかし、従来の意思決定は医師や管理者の経験に依存しており、判断のばらつきや承認の遅延、情報の断片化が課題となっていました。

「Decision Intelligence」は、AIと人が目的を共有し、リアルタイムデータと予測分析を活用して意思決定を支援する新しいアプローチです。AIは過去の判断と結果を学習し、精度と再現性を高めながら、意思決定の質を継続的に向上させます。

この仕組みにより、医療現場では診断や治療方針の決定がより迅速かつ一貫性を持って行えるようになります。患者にとっては、対応のスピードと正確性が向上し、安心して治療を受けられる環境が整います。治療方針の説明もデータに基づいて行われるため、納得感が高まり、医師との信頼関係の構築にもつながります。病院側では、医療資源の配分や業務プロセスの標準化が進み、業務効率の向上やコスト削減が期待できます。さらに、AIが意思決定の履歴と結果を学習することで、医療の質を継続的に高めるサイクルが構築され、組織全体の競争力向上にも寄与します。

今後のヘルスケア業界では、こうした意思決定の高度化が不可欠です。人とAIが協働する「Decision Intelligence」の導入は、患者・医療従事者・病院経営のすべてにとって価値ある変革となるでしょう。

出典

*1 厚生労働省「救急医療機関受診の適正化に向けた、軽症の急性疾患等に対応するための遠隔医療等の活用に関する調査研究 報告書」

*2 厚生労働省「令和2年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和2年度調査）の報告案について」

*3 「2025年度病院経営定期調査 中間報告（集計結果）」 一般社団法人 日本病院会、公益社団法人 全日本病院協会、一般社団法人 日本医療法人協会、公益社団法人 日本精神病院協会

選択と納得の医療体験



- パーソナライズされた治療と迅速な対応
- データに基づく説明で納得感を向上
- 継続的なサポートと体験価値の重視

判断支援と業務効率化



- 複雑化する診療に対応するデータ活用
- 限られた時間で精度の高い意思決定を実現
- AIによる診断・治療方針の支援

持続可能な経営と変革



- 制度改定・人材不足・収益変化への対応
- データ連携で業務効率と収益性を改善
- 経営の高度化と競争力の強化

患者は今、単なる治療だけでなく、自分の状態を理解し、納得したうえで選択できる医療体験を求めています。医療の質に加え、説明の透明性やタイムリーな対応、継続的なサポートといった“体験価値”が、医療機関を選ぶ基準になりつつあります。

一方、医師は、診療の高度化と業務の複雑化に直面し、限られた時間の中で最適な判断を下すために、直感や経験だけでなく、データやAIによる支援を必要としています。そして病院経営者は、制度改定・人材不足・地域連携・収益構造の変化といった多層的な課題に対し、従来の延長線では対応しきれないことを日々実感しています。

このような状況下で、従来の延長線上に未来はありません。今、求められているのは「変化に対応する」ことではなく、「変化を先取りし、活かす」こと。すでに一部の医療機関は、AIやデータ連携を活用し、現場と経営の両面で成果を出し始めています。

では、私たちは何から始めるべきでしょうか？ 次にご紹介するのは、そうした先進的な取り組み事例についてご紹介します。

医療従事者向けサービス

ワークフロー変革による医療従事者の業務効率化とサービス向上

減少



医療従事者負担
時間外労働

向上



サービス品質
患者満足度

医療従事者の業務負担

医療従事者の
業務負担

受付・窓口業務

診療記録・ドキュメント作成

患者の診療・ケア

診療情報整理/管理

医療機関間連携

待ち時間の短縮

高品質なサービス提供

AI活用後の
業務内容

受付・窓口業務

診療記録・ドキュメント作成

患者の診療・ケア

診療情報整理/管理

医療機関間連携

待ち時間の短縮

高品質なサービス提供

米国の大手医療情報システムベンダーであるEpic社では、医療現場の業務効率化やサービス品質向上を支援するため、生成AIや外部アプリケーション連携を活用したワークフロー変革を推進しています。

従来、医療従事者は診療記録や各種ドキュメントの作成、患者対応、情報共有など多くの業務を手作業で行っており、長時間労働やサービス品質の維持が課題となっていました。この課題に対し、この課題に対し、Epic社は生成AIによる診療記録や説明文の自動生成、344種超の外部アプリケーション連携などのサービスを提供。これにより、医療従事者は本来注力すべき診療やケアにより多くの時間を割くことができ、患者にとっても待ち時間の短縮や質の高いサービス提供といったメリットを実現しています。



社会医療法人玄州会様

経営資源の効率的な配置による持続可能な病院経営の実現

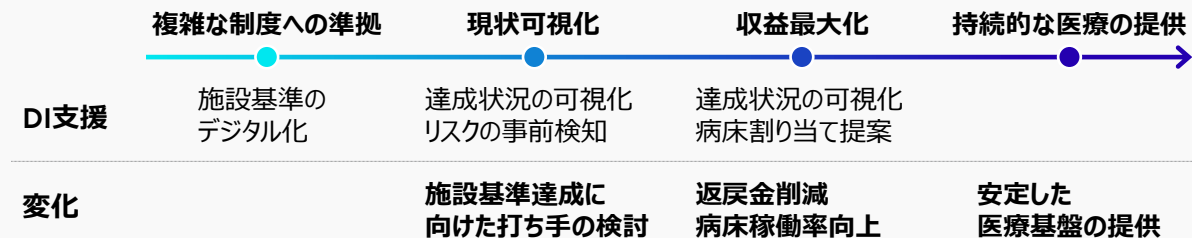
20% ↑

病床稼働率

10% ↑

収益増

病院経営に起こる変化

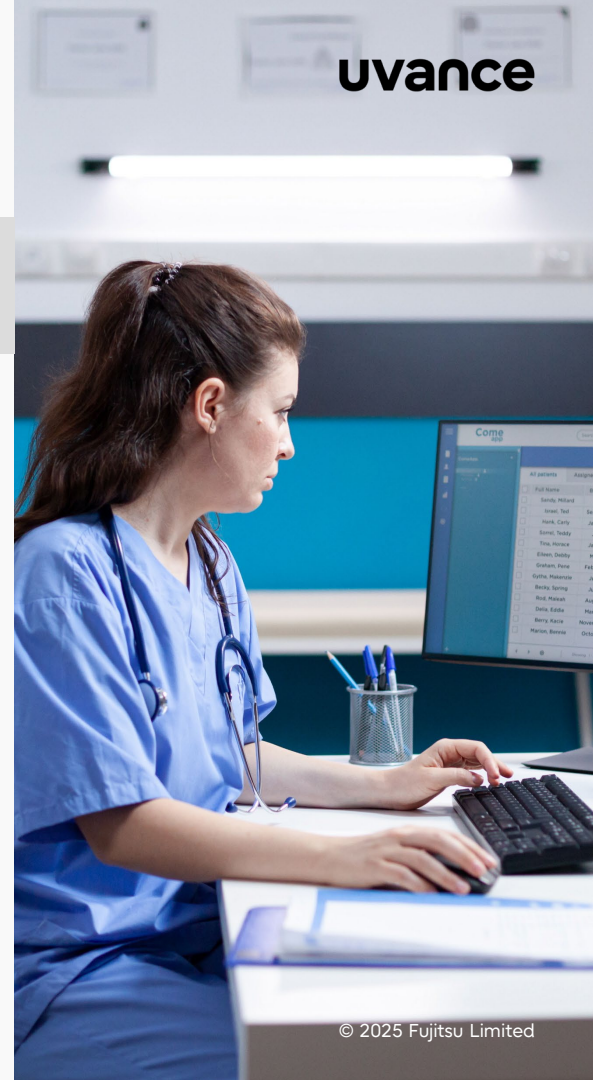


長崎県杵岐市の地域医療を担う玄州会様では、診療報酬制度の複雑さに起因する返還金リスクや病床運用の非効率性が経営課題となっていました。診療報酬の施設基準は頻繁に改訂され、看護配置や説明記録など多岐にわたる要件を現場職員がすべて把握・順守するのは困難であり、違反時には返還金が発生するため、経営への影響も大きい状況でした。

この課題に対し、玄州会様と富士通はAIとデータ統合基盤を活用した実証プロジェクトを実施。施設基準の達成状況を可視化し、未達時にはアラートと改善策を提示する仕組みを導入しました。また、数理最適化モデルによりベッド運用を効率化し、病床稼働率を約20%向上。これまで部門や業種間で分断されていた医療データを連携することで、収益性の改善と経営の高度化を実現しています。

本事例に関するプレスリリースはこちらをご覧ください： <https://global.fujitsu/ja-jp/pr/news/2025/10/28-01>

uvance



Decision Intelligence (DI) は、膨大なデータやAI技術を活用し、従来の経験や勘に頼った判断から脱却して、再現性と客観性のある意思決定を実現する新しいアプローチです。本ホワイトペーパーでは、DIが各業界にもたらす変革の可能性を、最新の先進事例とともにご紹介しました。

本資料が、貴社の今後の取り組みや戦略検討の一助となれば幸いです。

ご不明点やご質問、ご相談等がございましたら、どうぞお気軽にお問い合わせください。

富士通株式会社

〒211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田4-1-1

電話：044-777-1111 (代表)

<https://global.fujitsu/ja-jp>

「変化を力に変える“意思決定”革新 - Data×AIで創る医療の未来-」の一部または全部を許可なく複写、複製、転載することを禁じます。

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

このドキュメントは発行日現在のものであり、富士通によって予告なしに変更されることがあります。本資料は情報提供のみを目的としており、富士通はその使用に関する責任を負いません。